

と し け い か く り ょ く ち 都市計画緑地 は っ と り り ょ く ち 服部緑地

[豊中市・吹田市]

【再々々評価】

（事業再々評価後 5 年間が経過したため）

0. 目次

1. 事業概要

2. 事業の必要性等に関する視点

- 都市部における貴重なみどり空間の形成
- 災害時の防災機能強化
- 民間活力の積極的導入・多様な主体との連携協力

3. 事業の必要性等に関する視点

- 費用便益比

4. 事業の進捗の見込みの視点

5. コスト縮減や代替案立案等の可能性の視点

6. 対応方針

1. 事業概要

《服部緑地の概要》

- 服部緑地は、大阪四大緑地の一つとして計画され、昭和25年に開設した。
- 丘陵地に位置し、松林や竹林、池などのある自然豊かな公園で、充実したスポーツ施設や文化施設を整えており、北大阪地域のレクリエーションの拠点となっている。

○各種計画

- ・みどりの大阪推進計画

⇒北大阪地域の「骨格となるみどり」

- ・大阪府営公園マスタープラン
- ・服部緑地マネジメントプラン(案)
- ・大阪府都市基盤整備中期計画
- ・大阪府地域防災計画

⇒後方支援活動拠点として指定

- ・豊中市地域防災計画
- ・吹田市地域防災計画

⇒広域避難場所として指定

《事業箇所図》



1. 事業概要

《服部緑地の概要》

○規模

都市計画決定面積 : 138.4ha
開設済 : 126.3ha
未開設区域面積 : 12.1ha
事業中区域面積 : 7.6ha

○公園整備の経緯

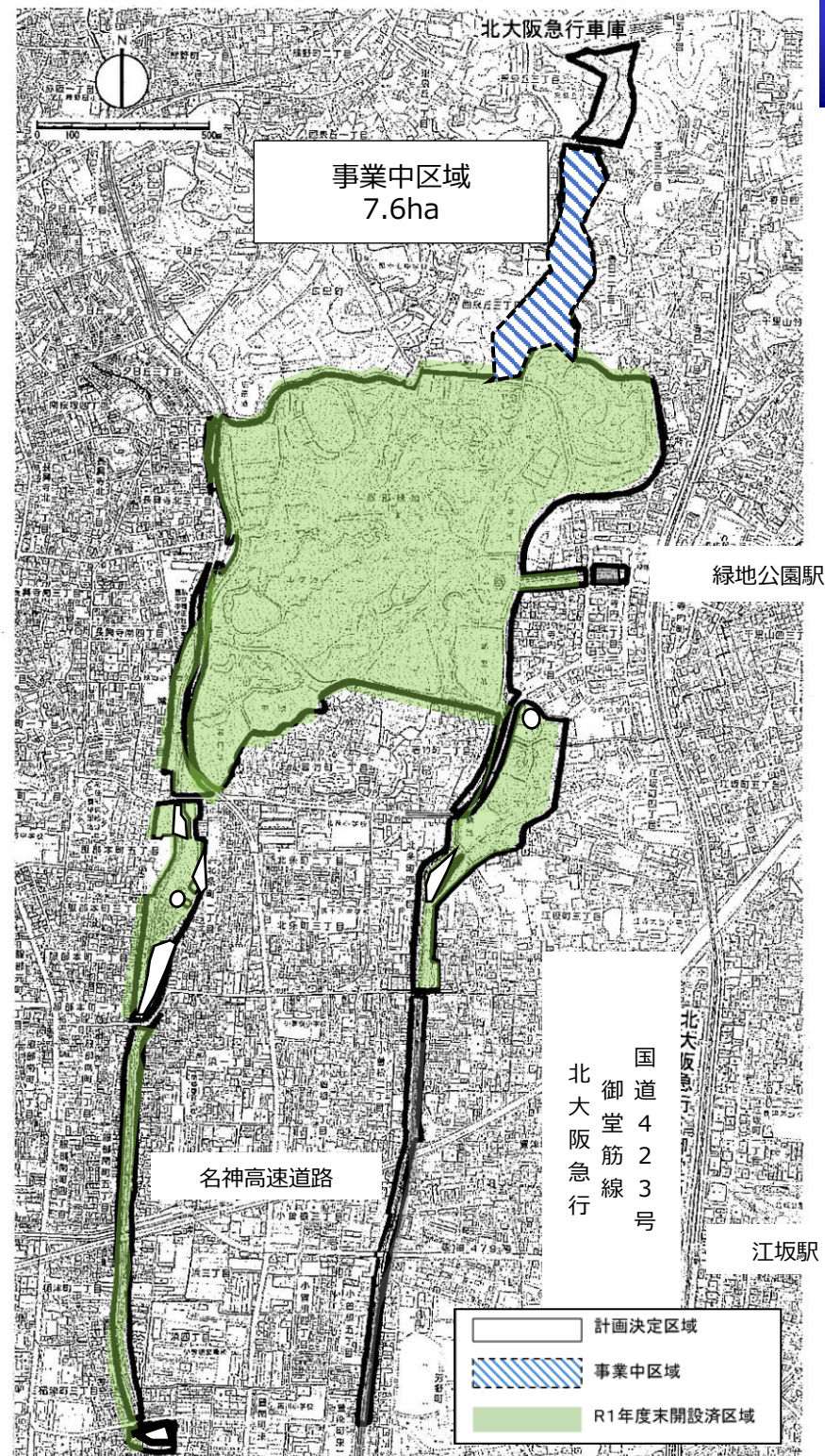
昭和3年 都市計画決定(115.0ha)
昭和16年 都市計画決定変更(115.0ha → 138.8ha)
昭和25年 開設(126.3ha)
昭和46年 都市計画決定変更(138.8ha → 142.0ha)
平成24年 都市計画変更(142ha → 141ha)
平成27年 都市計画決定変更(141ha → 138.4ha)

○事業費

全体 約304.3億円
【用地費 165.4億円 施設費 138.9億円】

○進捗状況

全体 84.1%
【用地費 82.5% 施設費 86.1%】



1. 事業概要

服部緑地マネジメントプラン（案）

目標像：『豊かな緑と一体で大阪の賑わいを創出する拠点となる公園』

取組基本方針

公園の特色を活かす

- ・多種多様な施設と、都市内の大規模なみどりを活かした相乗効果により賑わいを生む公園
- ・竹林や池などの自然風景や文化施設を通じて日本の歴史、文化を発信するなど、大阪を代表する国内外からの集客・観光を図る公園

民間活力の導入

- ・府民や企業等、多様な主体と連携して公園の利便性や魅力の向上を行うことで、新たなサービスの提供を図る公園

安全・安心・快適

- ・広域避難場所として、周辺地域の避難者を地震発生時の市街地火災等から守る公園
- ・後方支援活動拠点として、自衛隊や消防・警察等の支援部隊の救出・救助活動拠点等の役割を果たす公園

都市の環境を保全

- ・都市に創出された貴重なみどり資源として、「自然環境の保全・再生・創出」を図る公園



1. 事業概要

《服部緑地の概要》

◆豊かな緑と一体で大阪の賑わいを創出する拠点となる公園

○大阪四大緑地の一つとして計画され、昭和25年に開設した。

○丘陵地に位置し、松林や竹林、池などのある自然豊かな公園で、充実したスポーツ施設や文化施設を整えており、北大阪地域のレクリエーションの拠点となっている。



憩い・癒し



多様なアクティビティ



地域コミュニティ活動



ボランティア活動



災害対応力の向上



自然とのふれあい

1. 事業概要

《服部緑地の概要》

【開設区域の主な施設】



陸上競技場



児童遊戯場
(こどもの楽園)



プール
(ウォーターランド)



日本民家集落博物館



乗馬センター

円形花壇



都市緑化植物園



1. 事業概要

《維持管理運営》

- 服部緑地では、みどり豊かな美しく風格ある都市の景観向上に寄与する公園づくりを目指し、公園の管理運営において多様な主体との連携・協働に取り組んでいる。
- 平成18年度からは、指定管理者による公園運営維持管理がスタートしている。

【現状】

- ・ 指定管理者 : 服部緑地スマイルパートナーズ
- ・ 指定管理期間 : R5年度～R24年度（20年間）
- ・ 維持管理費 : 約246百万円／年（令和6年度時点）
- ・ 来園者数 : 約704万人／年（R5年度時点）
- ・ イベント等 : 約160回／年（令和5年度時点）
講習会 自然工作 ファミリーコンサート 等
- ・ 利用実態調査 : 「満足」、「やや満足」が、92%

※R5利用者満足度調査結果 ※回答者数 400サンプル

1. 事業概要

《指定管理者：服部緑地スマイルパートナーズとの協働による取り組み》

◆魅力向上事業(ハード事業)



心のウェルネス

【1】四季折々の顔を見せる美しい景観づくり 【2】自然と一体になり、リラックスできる空間の創出



円形花壇 改修イメージ(位置図⑦)



レストハウス 改修イメージ(位置図⑨)



東中央広場 改修イメージ(位置図⑧)



複合型温浴施設 整備イメージ
(位置図②)



カフェ 整備イメージ
(位置図①)



体のウェルネス

【1】多彩なスポーツにチャレンジできる機会の提供
【2】誰もが気軽にできる健康づくりのサポート



スケボーパーク 整備事例(位置図④)



フットサルコート 整備事例(位置図⑤)



社会のウェルネス

【1】大阪の顔として多様な賑わいを創出
【2】地域の憩い・交流の機会の提供
【3】誰もが利用しやすい公園への進化



体験型農園 整備イメージ(位置図⑥)



誰もが利用しやすい遊具 整備事例(位置図⑩)

◆魅力向上事業(ソフト事業)



心のウェルネス



自然と触れ合えるアウトドア体験が
できる関西最大級のアウトドアイ
ベントの開催



いなり山の竹林の良さを広くアピ
ールする竹を使ったアートクラフトに
よるライトアップイベントの開催



体のウェルネス



スケボーパークでのスケート
ボードスクールの定期開催



誰でも気軽に始められる
ノルディックウォーキング教室開催



社会のウェルネス



体験型農園で育てた野菜を
調理する「収穫祭」を定期開催



地産地消の推進・地域活性化・魅力
発信のため、地元の農産物や地域の
特産品などを販売するマルシェ開催

1. 事業概要

《事業中区域の概要》

○面積 7.6ha

○事業費

約123.7億円

(内用地費 110.4億円 施設費 13.3億円)

※前回評価時点

約119.1億円

(内用地費 110.4億円 施設費 8.7億円)

○事業計画期間

平成18年度(2006年度)

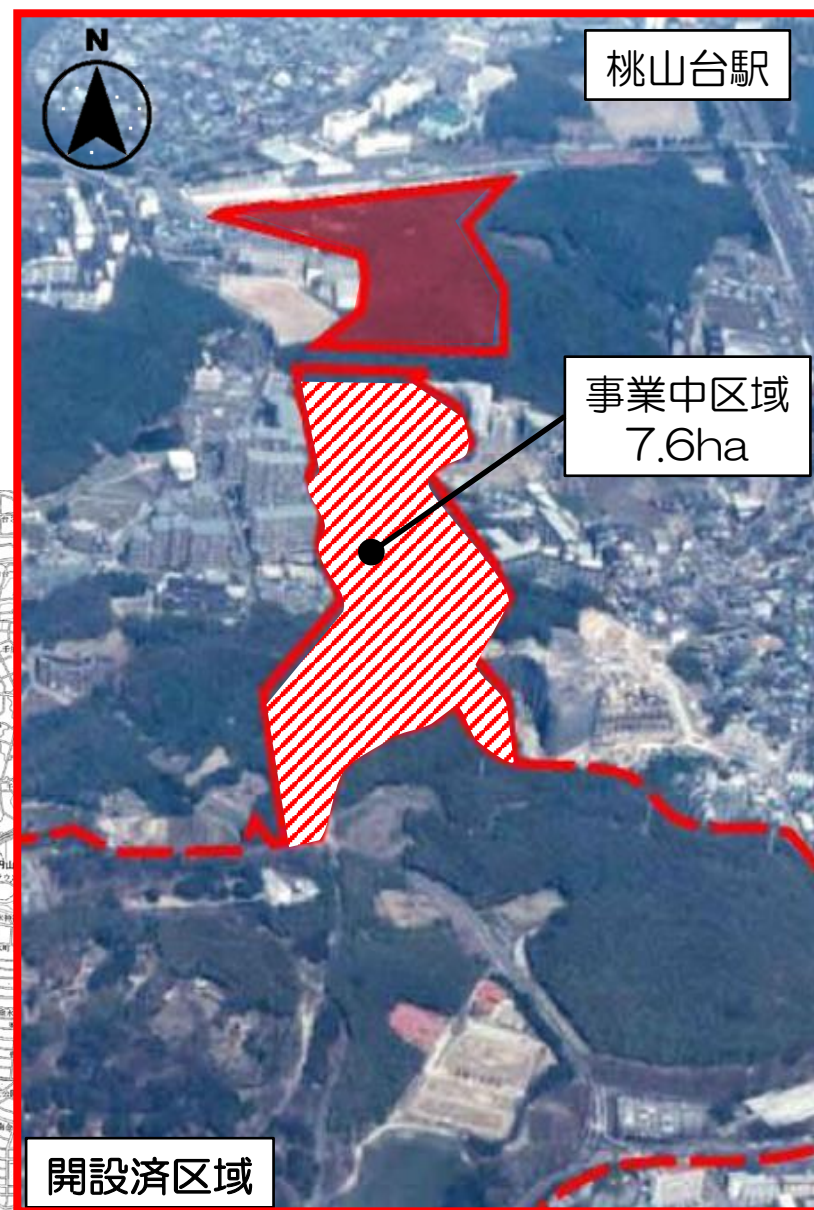
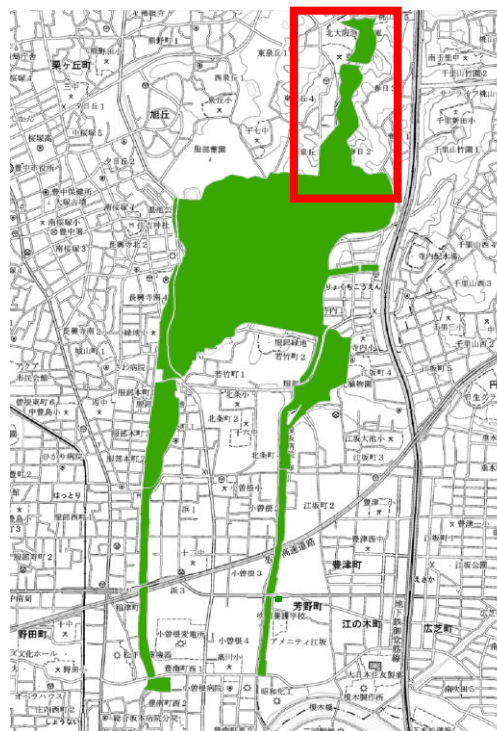
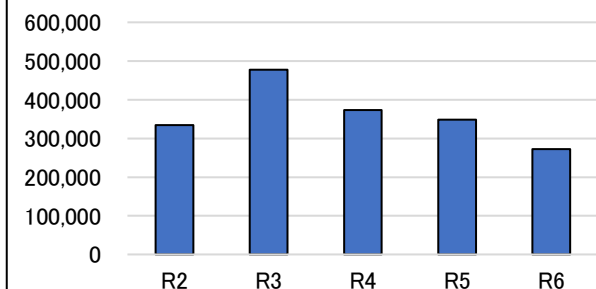
～令和17年度(2035年度)(予定)

○進捗状況

事業中区域 87.6%

(用地:98.2% 工事:0%)

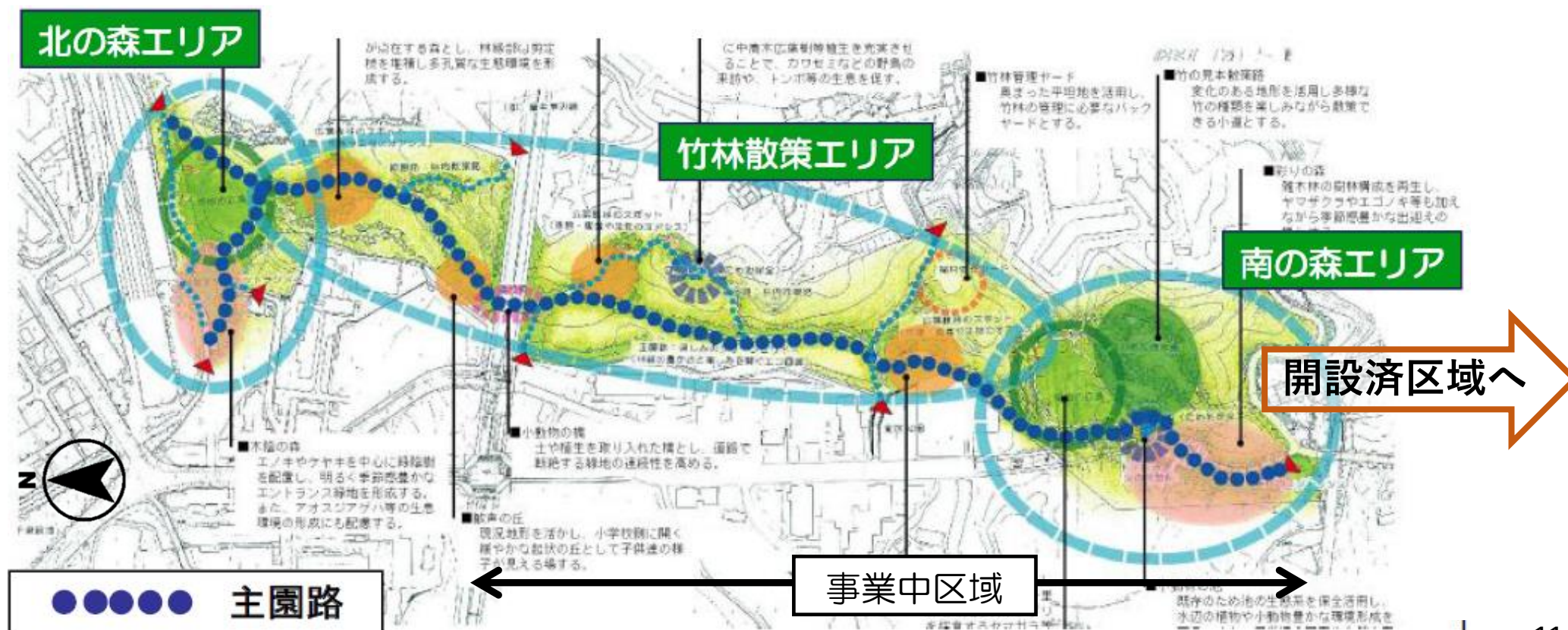
(千円) 服部緑地用地予算の推移



1. 事業概要

《事業中区域のゾーニング》

- 『北の森エリア』・・・千里緑地との連携を図るエリア。本緑地の北端にあたるため、竹林を背景としつつ、明るく豊かな空間とし、府民が入りやすいエントランス機能を持たせる。
- 『竹林散策エリア』・・・現況の竹林、ため池、地形などの現況を効果的に保全活用するエリア。南北の主動線を尾根沿いに設け、ゆるやかな曲線を描く園路線形とし、竹林の景観を楽しめるエリアを設ける。
- 『南の森エリア』・・・竹林と落葉樹林による、千里丘陵のエントランスエリア。既存の園地との接点部であるため自然環境保全活動の導入機能を設ける。



1. 事業概要

《事業中区域の施設計画》

地域の原風景である千里丘陵の竹林を保全し、散策園路や草地の広場、生き物の住処となる自然観察池などを整備する。

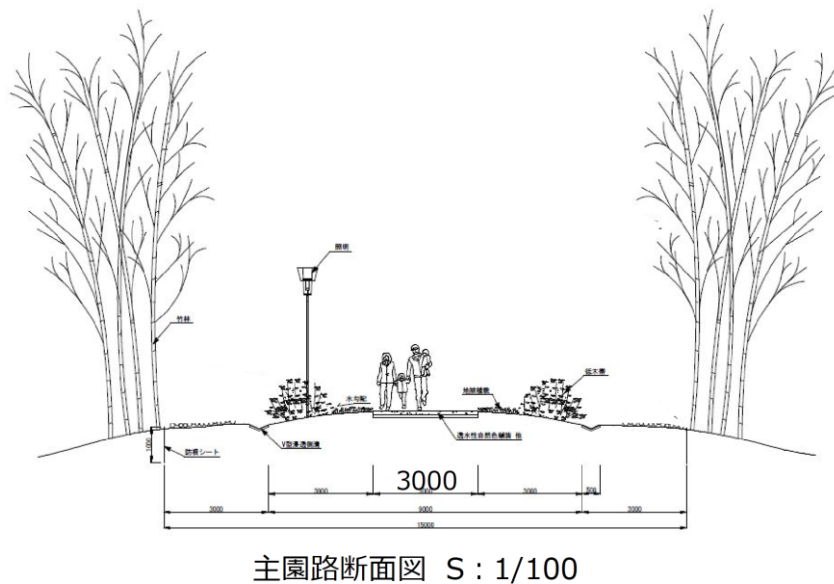


工事費内訳 造成費(約0.3億円)、施設整備費(約13.0億円)、 計13.3億円

1. 事業概要

《事業中区域の主要施設：散策園路》

- ・散策園路を尾根沿いに配置することで、曲線を描きつつ、ゆるやかな勾配となるよう計画する。
- ・断面は、中心部を舗装とし、その外側に土やチップ舗装、草地などを設けることで、明るく自然な竹林景観をたもちつつ、非常時には幅広く利用できる幅員を確保できる構造とする。



尾根部の現況

2. 事業の必要性等に関する視点

《事業の必要性を考える4つの視点》

○都市部における貴重なみどり空間の形成

○災害時の防災機能強化

○民間活力の積極的導入・多様な主体との連携協力

○費用便益分析



2. 事業の必要性等に関する視点（都市部における貴重なみどり空間の形成）

《住民一人当りの公園面積》

○服部緑地の位置する豊中市、吹田市の住民一人当たりの公園面積は、大阪府（政令市除く）平均を上回るものの、全国平均や都市公園法施行令に規定する標準値を下回っている。

【都市公園法 施行令第1条】

（都市公園の配置及び規模に関する技術基準）

- ・ 住民一人当たりの都市公園の敷地面積の標準 10.00m²以上

【現状】

- ・ **全国** 住民一人当たりの公園面積 10.9m²
（R6.3 都市公園データベースより）
- ・ **大阪府（政令市除く）** 住民一人当たりの公園面積 6.6m²
（R6.3 都市公園データベースより）
- ・ **豊中市** 住民一人当たりの公園面積（R6.3） 6.90m²
- ・ **吹田市** 住民一人当たりの公園面積（R6.3） 8.34m²

2. 事業の必要性等に関する視点（都市部における貴重なみどり空間の形成）

《千里丘陵における竹林の保全・活用》

千里丘陵の竹林は、「未来に残したい日本の自然百選」にも選ばれた、この地域の原風景であり、周辺の開発が進む中、竹林の適正管理を図ることにより千里丘陵の景観や環境を保全・活用する。

「未来に残したい日本の自然百選」

1982年、朝日新聞社と（財）森林文化協会が公募し、2000か所以上の推薦地から選定。大阪では「千里丘陵の竹林」と「淀川のワンド群」の2か所。



昭和54年

服部緑地



「周辺の開発が進み、千里丘陵の景観や環境が失われつつある」

事業中区域
7.6ha



令和6年

服部緑地

2. 事業の必要性等に関する視点（都市部における貴重なみどり空間の形成）

《千里丘陵における竹林の保全・活用》

府民と協働した竹林の保全・活用

管理が行き届かず、荒廃する竹林に人の手を入れ、ボランティアの協力のもと管理された美しい竹林に戻すことで、千里丘陵の環境及び景観の保全・活用を図る予定である。



荒廃した竹林

適切な管理



美しい竹林

●バンブークラブ

主として、間伐等をはじめとする**竹林の管理作業**を行っているボランティア団体。

タケノコ堀りや**体験学習**を通して竹林管理の大切さを啓発する活動のほか、竹炭づくりや門松づくりなど、間伐した竹を活用したワークショップ等のイベントも開催している。



2. 事業の必要性等に関する視点（都市部における貴重なみどり空間の形成）

《生態系ネットワークの形成、アクセス機能・レクリエーション機能の充実》

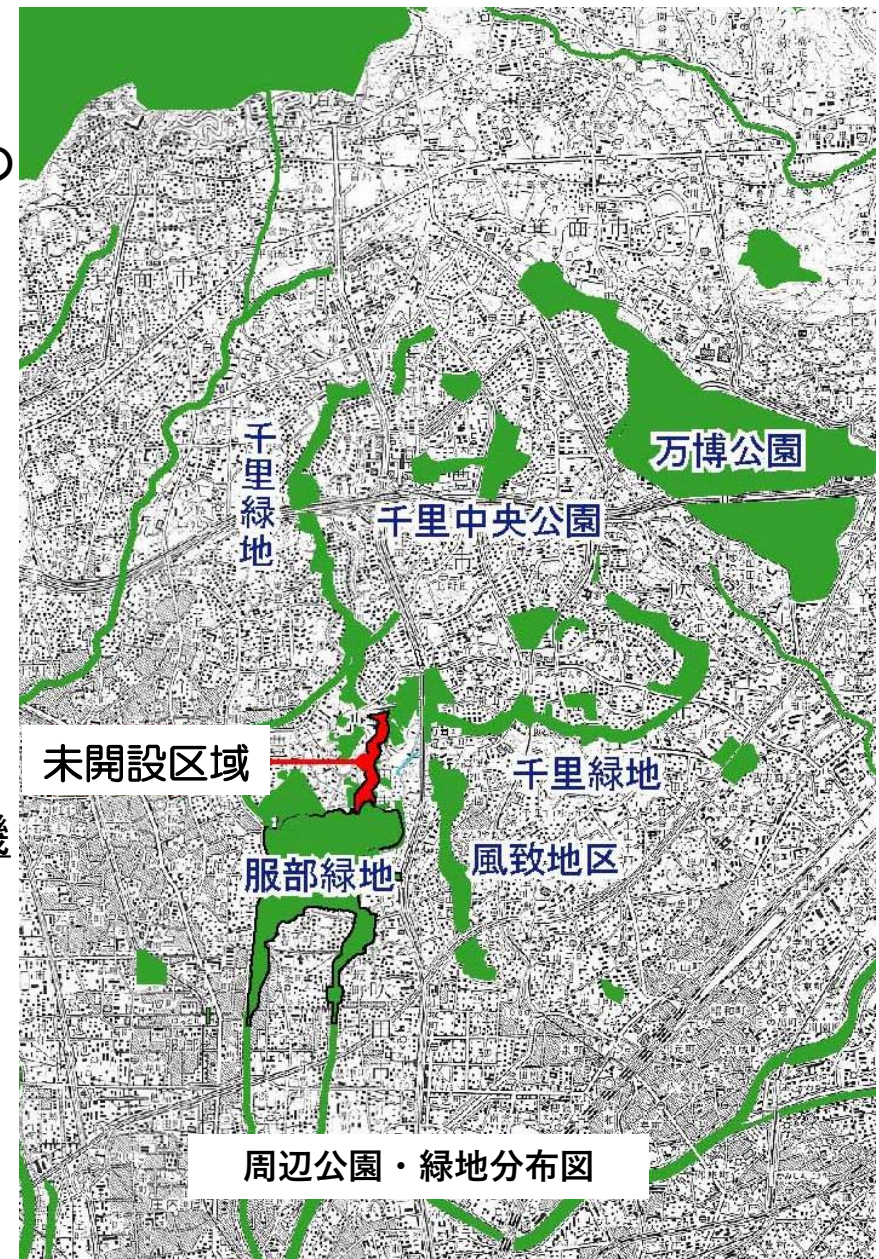
生態系ネットワークの形成

服部緑地と千里緑地、千里中央公園、万博公園などの大規模な緑の拠点をつなぐ回廊として、事業中区域の自然環境を保全し、生物多様性の確保を図る。



アクセス機能・レクリエーション機能の充実

府域でも屈指の良好な住宅地で、遊歩道や自然体験が日常的な楽しみとなっている。これらの公園・緑地の豊かなみどりと連携し、アクセス機能・レクリエーション機能のさらなる充実をはかる。



周辺公園・緑地分布図

2. 事業の必要性等に関する視点（災害時の防災機能強化）

《防災公園としての位置付け及び役割》

【防災公園の位置づけ】

◆大阪府地域防災計画（R7.3修正）

→**後方支援活動拠点**

◆大阪府広域的支援部隊受入計画（R6.6）

→**陸上部隊集結場所候補**

◇豊中市地域防災計画（R3年度）

→**広域避難場所、応援受入拠点**

◇吹田市地域防災計画（R5年度）

→**広域避難場所**

○服部緑地は、地域の防災拠点として重要な役割を担っている。

【後方支援活動拠点】

自衛隊、広域消防などの救援活動の拠点



※「広域的支援部隊受入計画」

大規模災害発生時に、大阪府が防災関係機関（警察・自衛隊など）に対し広域的な応援を要請した場合の受入について定めた計画

【地震に係る広域的支援部隊 集結場所候補地】

活断層地震等	集結・駐屯場所		
	第一候補	第二候補	第三候補
上町断層系地震	久宝寺緑地	万博公園	寝屋川公園
生駒断層系地震	万博公園	服部緑地	久宝寺緑地
有馬高槻構造線地震	久宝寺緑地	大泉緑地	寝屋川公園
中央構造線地震	久宝寺緑地	万博公園	寝屋川公園
南海トラフ地震	久宝寺緑地	万博公園	大泉緑地

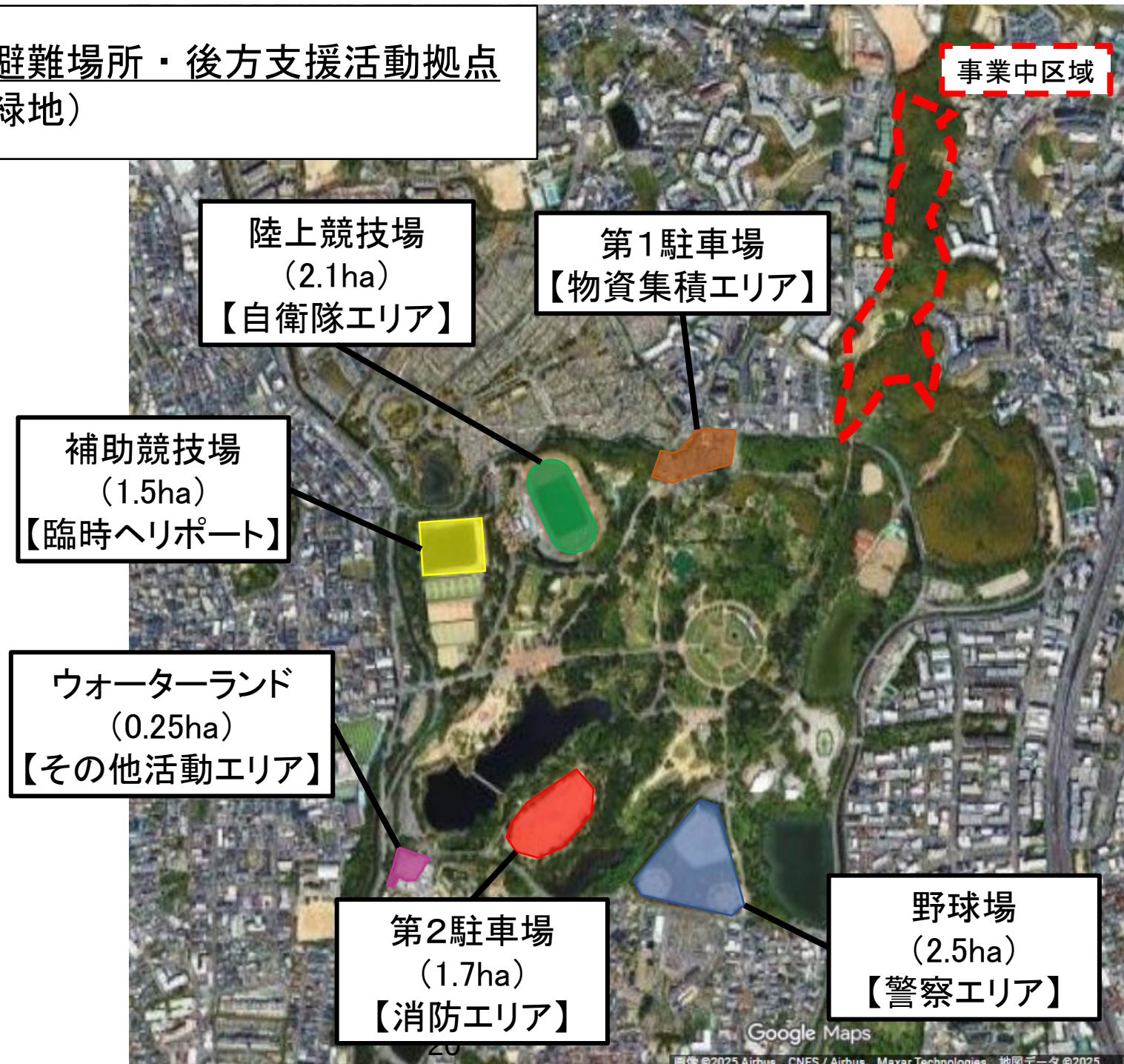
【広域避難場所】

豊中市・吹田市あわせ、服部緑地への最大想定避難者 約16万人



2. 事業の必要性等に関する視点（災害時の防災機能強化）

■ 広域避難場所・後方支援活動拠点
（服部緑地）

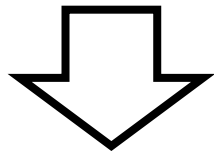


2. 事業の必要性等に関する視点（災害時の防災機能強化）

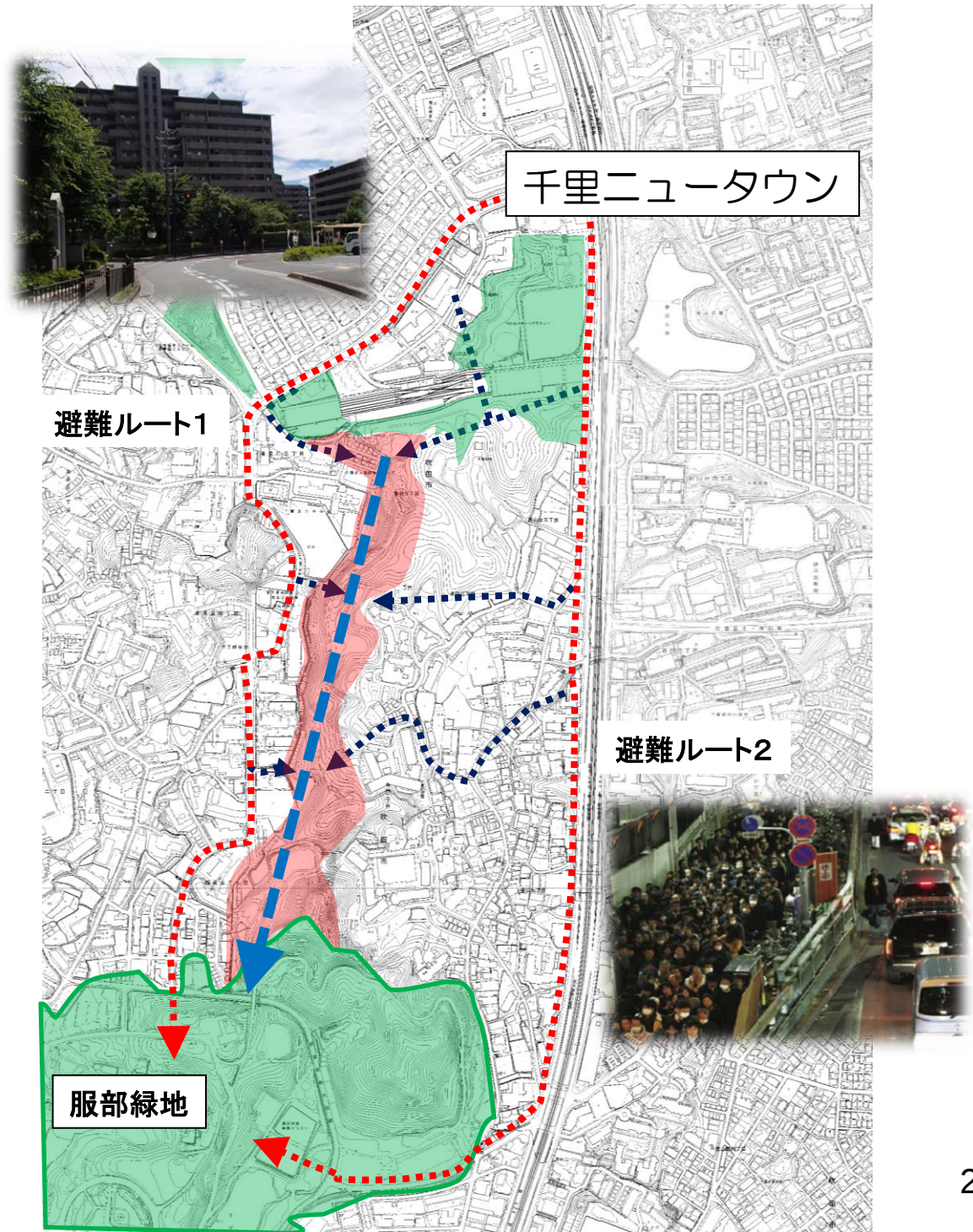
《防災公園としての役割》

【現状】

- ・避難ルート1・・・大規模マンションが多く、人口が集中しており、避難時に混雑する可能性あり。
- ・避難ルート2・・・緊急交通路であり、車両交通が多いことが予想されることから、人の避難など混雑する可能性あり。



◆事業評価対象区域の整備で、
より安全な避難路を確保
公園内避難エリアへの安全な歩行者
専用の避難路が確保される。



2. 事業の必要性等に関する視点

(民間活力の積極的導入・多様な主体との連携協力)

《ボランティア団体との連携・協働》

○ボランティア団体との協働による管理運営を通じて、公園管理へ府民等が参加する機会の確保に貢献している。

○協働でのイベントプログラム等の企画運営を通じて、都市活力を創造している。

◆各ボランティア団体の紹介

・服部緑地都市緑化植物園 友の会

講習会・展示会を通してハーブを広める。
ハーブ苗の育成・除草・水遣り等

・この指たかれ

園内の植物等の案内解説、毎月の学習会、
年2回の園外自主研修会、1月頃に造形展
(会員の作品の展示)

【第22回みどりの愛護功労者国土交通大臣表彰受賞】

・こどもゆめくらぶ服部教室

野菜栽培作業体験、草木の観察と学習・自然素材にわる工作・茅葺屋根の民家施設で昔の暮らしや遊びの体験・里山体験・コンニャクづくりなどの様々な体験学習

・服部緑地自然を楽しむ会

自然観察、自然工作

・服部緑地ファミリー自然教室

自然観察、自然物工作

【第30回みどりの愛護功労者国土交通大臣表彰受賞】

・バンブークラブ

竹林の管理作業、下草刈り、灌木の伐採、竹工作

【第17回みどりの愛護功労者国土交通大臣表彰受賞】

・天竺の原っぱで遊ぼう会

冒険遊び場での見守り、遊びのサポート。
はらっぱ内の清掃。

etc...

2. 事業の必要性等に関する視点

(民間活力の積極的導入・多様な主体との連携協力)

《ボランティア団体の活動紹介》

こどもゆめくらぶ服部教室



4月お椀と箸づくり



8月夏祭り・ソーメン流し



9月里山体験（平城山）



12月餅つき

この指たかれ



大人の団体を案内



小学生の団体案内



椿絞り



プロペラ飛ばし

服部緑地ファミリー 自然教室



受付風景



観察風景



工作風景

3. 事業の必要性等に関する視点（費用便益比）

事業の投資効果

○公園事業の費用便益比(B／C)について

○改訂第4版「大規模公園費用対効果分析手法マニュアル」（令和6年）により算出

※プロジェクトライフは50年間

※部分供用がある場合は、供用時期が異なる区域ごとに50年間を設定

※各便益、費用について、割引率4％で現在（計算実施年次）価値に割戻し

便益 ○公園整備によってもたらされる価値を定量的に換算したもの

費用 ○公園整備に要する整備費（用地費＋施設費）、維持管理費

$$\frac{\text{便益}}{\text{費用}} = \frac{\text{直接利用価値} + \text{間接利用価値}}{\text{整備費用} + \text{維持管理費}}$$

3. 事業の必要性等に関する視点（費用便益比）

《公園整備によってもたらされる価値と算出方法》

分 類		主な価値	算出方法
直接利用価値		健康促進 心理的な潤いの提供 レクリエーションの場の提供 文化的活動の基礎	旅行費用法
間接利用価値	環 境	緑地の保存 動植物の生息・生育環境の保存 ヒートアイランド現象の緩和 二酸化炭素の吸収	効用関数法
		季節感を感じられる景観の提供 都市形態の規制	
	防 災	災害応急対策施設の確保 （貯水槽、トイレ等） 火災延焼防止・遅延 災害時の避難場所の確保 災害時の救援活動の場の確保	

3. 事業の必要性等に関する視点（費用便益比）

費用対効果分析の流れ

基礎データの整理

服部緑地の誘致圏の設定

○誘致圏内の市区町村の抽出・競合公園の抽出

基礎データの収集・整理

- 対象ゾーン（自治体）の人口、世帯数などの収集
- 対象公園の内容（施設の機能・規模、広場面積、防災拠点機能の有無）
- 競合公園の内容（施設の機能・規模、広場面積、防災拠点機能の有無）

便益・費用の算出

<直接利用価値算出>

『旅行費用法』による算出

- ・公園整備の価値（魅力値）の算出結果を基に旅行費用を算出

<間接利用価値算出>

『効用関数法』による算出

- ①公園がある場合の満足度（効用値）の算出
- ②公園がない場合の満足度（効用値）の算出
- 間接利用価値の算出＝①－②

<費用算出>

- 用地費の算出
- 施設費の算出
- 維持管理費の算出

費用対効果の算出

<総便益（B）の算出>

- 現在価値の算出
（現在価格×割引率）

<総費用（C）の算出>

- 現在価値の算出
（現在価格×割引率）

費用便益比（ B/C ）の算出

3. 事業の必要性等に関する視点（費用便益比）

誘致圏内の市区町村の抽出と競合公園の抽出

○服部緑地の誘致圏内の市区町村を抽出

- ・服部緑地の誘致圏半径15km内に市区町村役場がある市区町村を抽出

※利用者アンケート結果より、誘致圏半径を15kmとした（利用者の80%以上）



35市区

○競合公園の抽出

- ・条件①：現在供用中の公園
- ・条件②：供用面積が10ha以上である

大規模公園（総合公園、運動公園、広域公園、レクリエーション都市）、国営公園等、
又は広域的に利用が見込まれる公園（特殊公園（風致、歴史））

- ・条件③：誘致圏から利用が見込まれる公園（当該公園の誘致圏が35市区と重複している公園）



60公園

3. 事業の必要性等に関する視点（費用便益比）

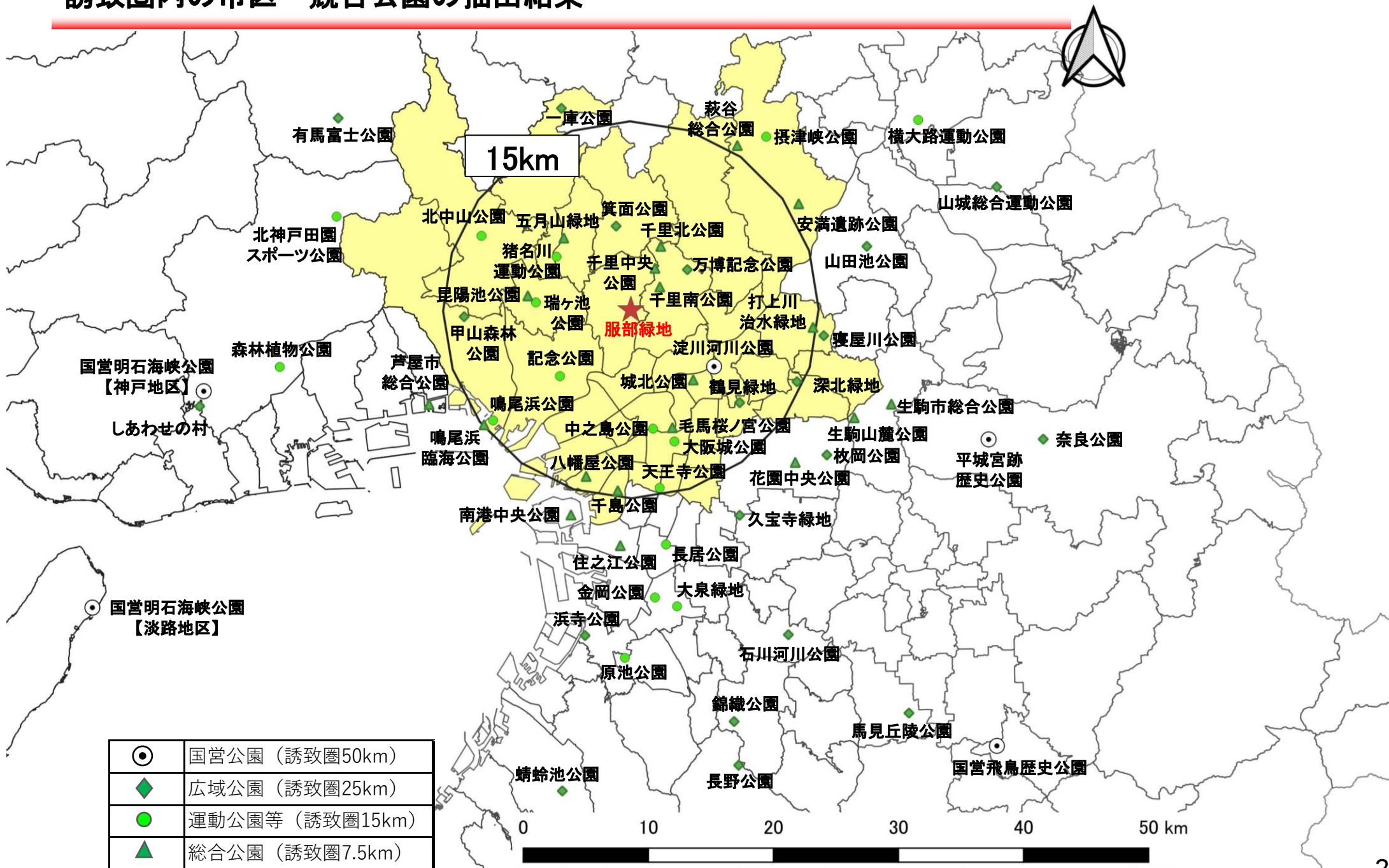
誘致圏内の市区



番号	市区名	番号	市区名
1	豊中市	19	西区
2	吹田市	20	鶴見区
3	東淀川区	21	港区
4	箕面市	22	東成区
5	淀川区	23	寝屋川市
6	摂津市	24	浪速区
7	池田市	25	天王寺区
8	西淀川区	26	大正区
9	旭区	27	高槻市
10	守口市	28	大東市
11	北区	29	生野区
12	茨木市	30	四條畷市
13	都島区	31	伊丹市
14	福島区	32	川西市
15	城東区	33	尼崎市
16	門真市	34	宝塚市
17	中央区	35	西宮市
18	此花区		

3. 事業の必要性等に関する視点（費用便益比）

誘致圏内の市区・競合公園の抽出結果



3. 事業の必要性等に関する視点（費用便益比）

基礎データの収集・整理

○35市区のデータ収集

- ・35市区の人口、世帯数などの基礎データを国勢調査等より収集

○公園ごとの魅力値の算出

- ・服部緑地および競合公園のそれぞれの整備内容より、利用者容量(人)を算出

利用者容量(人)＝施設規模(面積や数量)×利用者原単位×稼働率(サイクル)

(例)

機能	利用者原単位	稼働率(サイクル)
テニスコート	4人／面	1時間／サイクル
広場(芝生・多目的)	1人／3.2m ²	2時間／サイクル

○旅行費用の算出

- ・35市区と、服部緑地および競合公園間の旅行費用を算出

旅行費用(円)＝交通機関別旅行費用×交通手段利用率＋公園利用料金

交通機関別旅行費用＝所要時間×時間価値＋移動費用

交通機関は、徒歩、自転車、自動車、鉄道(バス)の4手段

3. 事業の必要性等に関する視点（費用便益比）

直接利用価値の算出

旅行費用法…「公園利用者は、公園までの移動費用をかけてまでも公園を利用する価値がある」という考えが前提のもとで、公園までの移動費用（料金、所要時間）を利用して、公園整備の価値を貨幣価値で評価する。

1. 35市区の公園別利用選択率の算出

・公園の魅力値、旅行費用、有料公園に対する抵抗感から、各市区それぞれの公園別利用選択率を算出

2. 公園毎の需要量(総年間利用回数)の算出

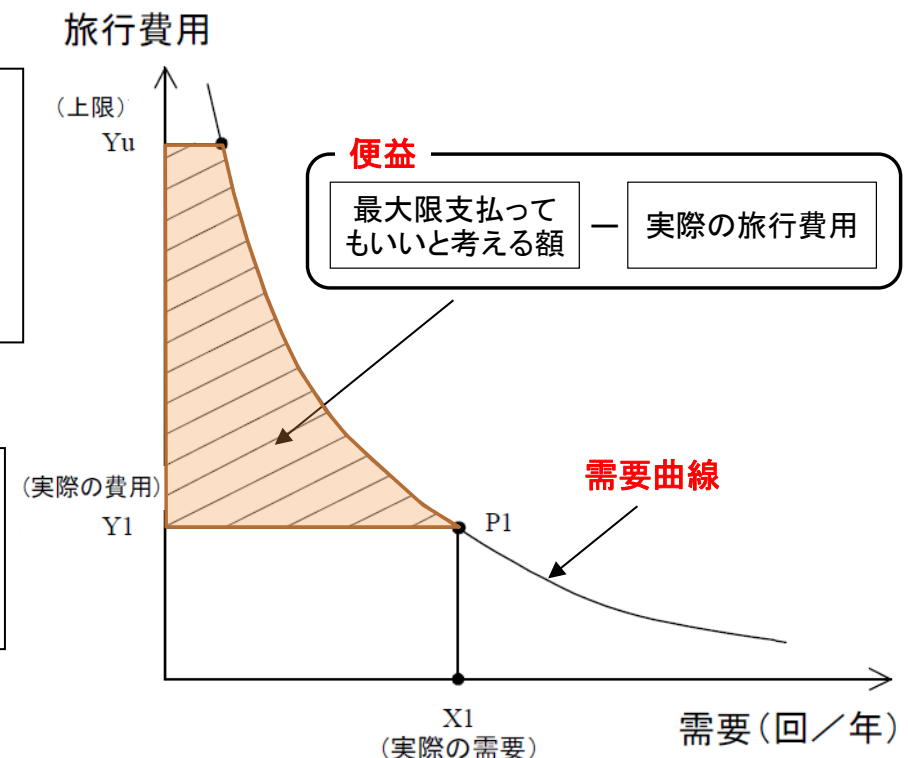
・35市区の人口や年齢構成、利用選択率等から、公園（服部緑地、競合公園）ごとの需要量（総年間利用回数）を算出

3. 需要関数の導出

・旅行費用と需要（回／年）の関係を表す需要曲線を求める

4. 便益の算出

単年度便益は、需要関数から消費者余剰分（斜線部）を計測する。



3. 事業の必要性等に関する視点（費用便益比）

間接利用価値の算出

効用関数法・・・「公園整備を行った場合と行わなかった場合の周辺世帯の持つ望ましさ(効用)の違い」を貨幣価値に換算することで公園整備を評価する。

1. 効用値の算出

- ・35市区が服部緑地・競合公園のそれぞれに対して持つ効用値を算出。
- ・効用値は、「環境」価値と「防災」価値を合わせたもの。

分類	機能	用いる基礎データ
「環境」価値	環境の維持・改善、景観の向上に役立つ価値	・公園の緑地面積 ・公園からの距離
「防災」価値	防災に役立つ価値	・公園の広場面積 ・防災拠点の有無 ・公園からの距離

2. 満足度の算出

- ・服部緑地がない場合の個々の世帯の満足度－①
- ・服部緑地がある場合の個々の世帯の満足度－②

3. 服部緑地に対する個々の世帯の便益額の算出

- ・②と①の差分より、個々の世帯の便益額を算出

4. 便益の算出

3. 事業の必要性等に関する視点（費用便益比）

服部緑地の費用便益比の算出結果（B／C）

○費用便益比（B／C）の算出結果

費用便益分析は、社会的割引率を用いて将来時点における便益や費用を現在の貨幣価値に補正した上で、事業期間中に発生する便益と費用の総額を算定し、費用便益比（B／C）を求めることにより行った。

	令和元年度 （前回）	令和6年度 （今回）
割引後総便益（百万円）：B	235,195百万円	187,862百万円
割引後総費用（百万円）：C	58,154百万円	40,378百万円
費用便益比：B／C	4.04	4.65

★プロジェクトライフ50年間

部分供用がある場合は、供用時期ごとに50年間を設定

★各便益、費用について、割引率4％で現在（計算実施年次）価値に割戻す。

3. 事業の必要性等に関する視点（費用便益比）

前回のB／C結果（便益）との比較

（百万円）

		令和元年度 （前回）	令和6年度 （今回）	考察（便益減少の主な要因）
直接 利用 価値	利用	127,429	85,828 (67%)	将来人口・世帯数の減少⇒直接・間接利用価値に影響 ①服部緑地から各市町村役場への直線距離を精査した結果、誘致圏が39市区から35市区に減少した。 ②上記の誘致圏減少と各市区の推計値の減少により、誘致圏内全体の将来人口・世帯数が小さくなり、直接利用価値および間接利用価値が減少した。
	環境	45,528	43,755 (96%)	
間接 利用 価値	防災	62,238	58,279 (94%)	
	小計	107,766	102,034	
合計		235,195	187,862	

3. 事業の必要性等に関する視点（費用便益比）

誘致圏の将来人口・世帯数推計値の前回との比較

将来人口・世帯数ともにその推計値は、前回に対して今回は9割前後となっている。

➡直接利用価値は人口に、間接利用価値は世帯数にも依存するため、便益額が影響を受けている。

表 将来人口推計の比較

単位：人

年度	前回	今回	今回/前回
2019	6,884,398		
2024		5,870,397	
2025	6,783,600		
2034		5,686,112	
2035		5,663,700	
2041		5,503,601	
2042	6,138,301	5,474,606	0.892
2068	4,795,462		
2069	4,740,308		
2073		4,214,070	
2074	4,474,841	4,169,396	0.932
2075	4,424,274		
2084		3,750,971	
2085		3,711,210	
2091	3,716,036	3,477,478	0.936

表 将来世帯数推計の比較

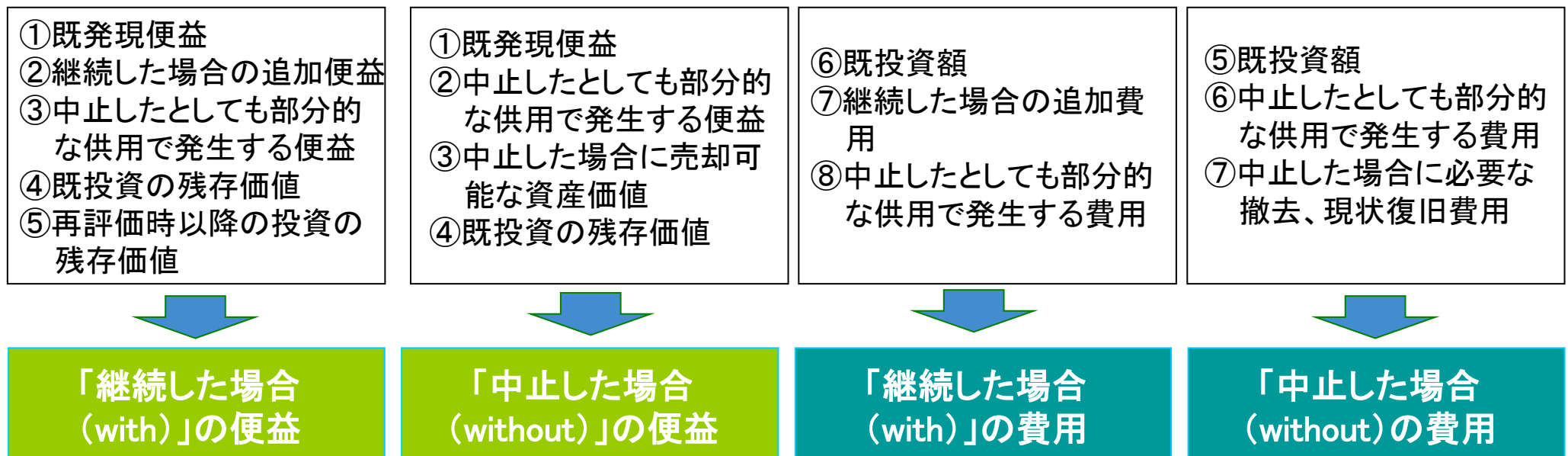
単位：世帯

世帯数	前回	今回	今回/前回
2019	3,209,700		
2024		2,863,617	
2025	3,218,240		
2034		2,843,529	
2035		2,834,882	
2041		2,741,235	
2042	2,951,794	2,722,359	0.922
2068	2,757,037		
2069	2,749,546		
2073		2,376,670	
2074	2,712,093	2,368,325	0.873
2075	2,704,603		
2084		2,284,874	
2085		2,276,527	
2091	2,584,745	2,226,457	0.861

3. 事業の必要性等に関する視点（費用便益比）

○残事業の投資効率性の評価における費用便益分析について

- ・事業を「継続した場合（with）」と「中止した場合（without）」との比較を行う。



便益

「継続した場合（with）」の便益－「中止した場合（without）」の便益

費用

「継続した場合（with）」の費用－「中止した場合（without）」の費用

3. 事業の必要性等に関する視点（費用便益比）

○便益

区分	項 目	内 容	値(百万円)
継続 WITH	①既発現便益	再評価時(2024年度)以前の発現便益	8,504
	②継続した場合の追加便益	公園の追加開設区域から発生する便益	16,757
	③中止したとしても部分的な供用で発生する便益	既開設部分での便益	162,601
	④既投資の残存価値	買収済の用地の残存価値	948
	⑤再評価時以降の投資の残存価値	今後取得予定の用地の残存価値	201
	便 益	計	189,011

区分	項 目	内 容	値(百万円)
中止 WITHOUT	①既発現便益	再評価時(2024年度)以前の発現便益	8,504
	②中止したとしても部分的な供用で発生する便益	既開設部分での便益	162,601
	③中止した場合に売却可能な資産価値	買収済(未開設区域)の用地の残存価値	—※
	④既投資の残存価値	開設区域の用地の残存価値	948
	便 益	計	172,053

※当該区域は貴重な自然を有しており、他の用途での活用も難しく、大阪府が長期的に保有することを前提としているため、残存価値は『—』とする。

3. 事業の必要性等に関する視点（費用便益比）

○費用

区分	項 目	内 容	値(百万円)
継続 WITH	⑥既投資額	再評価時(2024年度)以前に投資した額	32,163
	⑦継続した場合の追加費用	公園の追加開設を行うために発生する費用(継続-中止)	4,114
	⑧中止したとしても部分的な供用で発生する費用	既開設部分で発生する費用	5,250
	費 用	計	41,527

区分	項 目	内 容	値(百万円)
中止 WITHOUT	⑤既投資額	再評価時(2024年度)以前に投資した額	32,163
	⑥中止したとしても部分的な供用で発生する費用	既開設部分で発生する費用	5,250
	⑦中止した場合に必要な費用	中止した場合に必要な撤去、現状復旧費用等	—
	費 用	計	37,413

3. 事業の必要性等に関する視点（費用便益比）

○残事業の投資効率性の評価における費用便益分析結果

$$\frac{\text{便益: B}}{\text{費用: C}} = \frac{189,011 - 172,053}{41,527 - 37,413} = \frac{16,958}{4,114} = 4.12$$

割引後総便益（百万円）： B	16,958
割引後総費用（百万円）： C	4,114
費用便益比： B／C	4.12

4. 事業の進捗の見込みの視点

- ・事業中区域の用地買収は、約98%進捗している（先行取得分を含む）。
- ・先行取得した用地については、予算状況に応じて、一般会計への買戻を行っている。
- ・買い戻したエリアから順次工事に着手予定であり、令和17年度の事業中区域の完成を目指している。

5. コスト縮減や代替案立案等の可能性の視点

【コスト縮減】

- ・事業中区域における事業費の約89%は用地費であり、そのうち約98%は投資済みである。
- ・竹林を保全・活用するため、施設整備は必要最小限としている。
- ・工事費については、造成工事、植栽工事、排水、電気・給水等の施設工事など、公園事業として必要な基盤となる工事であるため、コスト縮減の余地はない。

【代替案立案】

- ・対象地の竹林は、地域の貴重な緑資源であり、周辺の緑と併せて生態系ネットワークを形成している。
- ・また、災害時に近隣住民の広域避難場所である服部緑地への避難路の役割を果たすものである。
- ・これらを踏まえ、代替案立案の余地はない。

6. 対応方針

対応方針：事業継続

<判断の理由>

- ・周辺地域の急速な大規模マンション等の宅地開発に伴い、未整備地の貴重な竹林などの自然環境が失われており、これらの地域環境や景観の保全・活用のためには、事業継続が必要である。
- ・大阪府地域防災計画においては、後方支援活動拠点として位置付けられており、災害時の重要な防災拠点となっている。
また、豊中市及び吹田市の地域防災計画においても広域避難場所として位置づけられており、事業中区域において安全な避難路の確保を行うことは、防災機能の充実に資する取組である。
- ・事業中区域の用地買収は約98%進捗しており、令和17年度の事業中区域の完成を見込んでいる。